

## 論文審査の結果の要旨

学位申請者（乙）	中村 喜次	国際医療センター心臓血管外科
代表指導教員	新浪 博	同上
指導教員	中嶋 博之	同上

主査	教授	佐藤 紀	総合医療センター血管外科
副査	教授	山本 啓二	心臓内科
副査	准教授	今中 和人	総合医療センター心臓血管外科
副査	准教授	太田 晶子	社会医学

中村喜次先生の学位審査会は、申請者本人、オブザーバ（指導教員）として中嶋博之先生、および学位審査委員全員が出席し、平成 28 年 10 月 25 日午後 4 時から埼玉医科大学総合医療センターカンファレンス室 3 にて行われた。

申請書類の確認後、中村喜次氏により、審査対象論文の内容につき、約 30 分間にわたり説明が行われた。本研究は埼玉医科大学国際医療センターにおいて行われた連続 726 例に及ぶ心拍動下冠動脈バイパス術（OPCAB）において、上行大動脈の石灰化の程度に応じたバイパスストラテジーの個別的決定の方針が、上行大動脈操作に伴い生じる脳梗塞発症の減少のために妥当であることを述べたものである。

プレゼンテーションに引き続き内容に対しての質疑応答が行われた。主な質問内容としては、

- 1) 上行大動脈石灰化の術前評価法は一般的なものであるのか
- 2) 石灰化の過多により術前リスクスコアに差が認められるのか
- 3) 脳梗塞の定義が術前は MRI スクリーニングにより行われているのに対し、術後は有症状例のみの検査により評価されているので、同一とは言えないのではないのか
- 4) 経食エコーによる上行大動脈評価は困難ではないのか
- 5) アウトカムの評価時期はいつまでなのか
- 6) 手術方針については大体の方向は決まっているが、最終決定は術者に任せられているので、方針の適正性の厳密な評価は困難なのではないのか
- 7) Single arm study として限界があるのではないかなどがあった。

申請者はこれらの質問に対し、誠実かつ真摯に解答し、またいくつかの点においては申請者自ら疑問点を認め、すでに論文中の **limitation** の項に挙げている事を述べた。

申請者退席の後、検討を行ったが、多数の症例の術後経過を調べた論文で、後方視的臨床研究であるためのやむを得ざる制限はあるものの、報告の価値があり、また申請者本人の人格、態度、識見なども問題無く、学位授与にふさわしいと、審査委員全員一致で結論した。